

## J-KIDS 大賞2006選考評定マニュアル

全日本小学校ホームページ大賞 JKIDS 大賞2006実行委員会  
国際大学 GLOCOM 豊福晋平  
平成 18 年 4 月 15 日

第1部 評定をはじめるとにあって.....	2
J-KIDS 大賞のねがい .....	2
J-KIDS 大賞の特徴.....	2
学校ホームページのとらえかた.....	3
J-KIDS2006評定基準の構造 .....	4
選考評定のポイント.....	4
第2部 評定のすすめかた .....	7
選考評定のフロー .....	7
選考時の制限条件 .....	7
評定フォーム・学校情報.....	7
# 1 必須項目の確認(01～04)の評定 .....	9
必須条件・評定打ち切りの確認.....	10
# 2 学校概要(05～26)の評定 .....	11
# 3 学習活動・教育研究・学校生活(27～37)の評定 .....	16
# 4 PTA・機能(38～43)の評定.....	19
# 5 2次評定項目(事務局評定項目) .....	20
評定結果の調整.....	26
評定結果の評点差表示 .....	26
評定後の学校ページ側の変化検出 .....	26
個別評定差の把握 .....	27

## 第1部 評定をはじめるとにあって

J-KIDS大賞2006の選考ボランティアへのご協力ありがとうございます。J-KIDS大賞最大の特徴でもある「全国1万6千校・勝手選考」は、皆様の熱意と教育への高い関心に支えられて、はじめで実現可能となったコンテスト選考方法です。選考プロセスに数多くの方々に参加していただくことで、学校教育に対する理解を深める良い機会となりますことを期待しております。

### J-KIDS大賞のねがい

J-KIDS大賞は、特に子供達の生活と密接に関係する学校ホームページの役割に注目し、その総合的評価と支援を目的として創案されたものです。

情報社会における学校とは、いいかえれば、日々膨大な知識や思念が行き交う情報拠点に他なりません。それぞれの学校が独自の教育活動を多様に展開し、児童生徒・保護者そして地域社会から活動に対する理解と支持を獲得し続けるために、これら情報拠点は広く社会に対してひらかれることが求められており、情報発信手段としてのホームページの位置づけは、今後一段と重要になるものと予想されます。

私達が考えた理想の学校ホームページとは、「子供達や保護者の生活や意識とともにあり、日々蓄積と相互作用を繰り返す、長きにわたって継承されてゆくページ」というものです。たとえ派手で目立つ内容はなくても、地道に活動運営に取り組むことで、いつしか年輪のように刻まれた軌跡から、学校や子供達の雰囲気そのまゝうかがえるようなページ作りを応援したい、人知れず頑張っている作り手に精一杯のエールを送りたいとの願いが込められています。

### J-KIDS大賞の特徴

#### 応募不要のコンテスト

ホームページは日常的に運営され、その普段の様子を選考対象とすべきとの考えから、全国の小学校ホームページを可能な限り探し出し、公開情報のみに基づいて予告なく選考を行なう「勝手選考方式」を採用しています。

#### ボランティアが支えるコンテスト

全国約1万6千校を対象とした都道府県代表校選考(一次選考)は、千名を超える社会人選考ボランティアの方々のご協力をいただき実施されます。選考活動に直接関与することで、保護者や卒業生の視点から学校の現状を知っていただくという意義もあります。

### オープンでフェアなコンテスト

都道府県代表校選考は約70項目の評定基準を設け、選考終了後に結果統計情報とともに公開します。客観的基準をオープンにすることで、J-KIDS大賞実行委員会が考える「あるべき小学校ホームページの姿」を世に問うという狙いがあります。

### ホームページの甲子園!?

各都道府県などから県代表校、都道府県優秀校(各都道府県2位~10位)を選出し、つぎにその中からベスト8、応援団賞、デジタルイメージ賞の合計10校を選出し、さらにその中から大賞、文部科学大臣賞、総務大臣賞、経済産業大臣賞を選びます。さながら高校野球選手権のようなイメージで、わかり易い、親しみ易いコンテストとしています。

## 学校ホームページのとらえかた

J-KIDS大賞では、学校ホームページをユーザー・目的・適用範囲の3つの要素でとらえます。

一つ目の要素はホームページのユーザー(利用対象者)です。学校と関わりを持つ人々はすべてステークホルダ(意思決定に関わる利害関係者)として考えますが、これには狭義のものと広義(潜在的)なものがあります。

:狭義のステークホルダ(保護者・在籍児童生徒・教員・行政)

:広義のステークホルダ(保護者以外の家族・転入学希望者・元在校生・地域市民など)

ステークホルダの特徴は、特定の学校に対して、かなり詳細でかつアップ・トゥ・デートな情報を必要としていることです。これはマスメディアや自治体の行政広報では対応しきれない領域です。

二つ目の要素は目的です。学校ホームページの目的には次の3つがあります。

新聞としての目的(広報・連絡・アカウントビリティ)

人々をつなぐ目的(地域拠点・情報拠点・活動拠点)

アーカイブ・ミュージアムとしての目的(情報蓄積)

公共機関ホームページの目的は にあるアカウントビリティが注目されやすいのですが、学校は多くの人々が集い、ある程度長期間の関わりを持ち、思い出を残してゆく場所でもあり、広範囲かつ中長期的にみれば、 の目的もまた必要とされるものです。

三つ目の要素は内容の適用範囲です。学校ホームページが扱う内容と主に関わる人々について区別すると、次の3つがあります。

組織情報(学校組織運営に関わる情報、学校管理者・教職員・上部組織)

教育活動(正課の教育活動に関わる情報、授業者と学習者(児童))

学校生活(学校生活全般に関わる情報、保護者・地域等、多様な参加者)

コアの組織情報としての から、へと広がりをもつことで、学校の社会的位置付けの認識と、多様なつながりを学校ホームページのコンテンツから把握することができます。

## J-KIDS2006評定基準の構造

J-KIDS2004以降、評定基準は構造化され採点基準が厳密化されました。

図の通り、3×3のマトリクス+1の全10カテゴリを設け、評定を行います。マトリクスの縦軸には3つの目的、横軸には3つの適用範囲が配置され、さらにこれら全体を支える仕掛けとしての機能が独立して設けられています。

J-KIDS大賞2005 選考基準マトリクス(概要)	組織 Organization 学校組織に関わる情報 管理職・教職員・上位組織	教育活動 Teaching & Learning 正課教育活動に関わる情報 授業者と学習者	学校生活 School Life 学校生活全般に関わる情報 保護者・地域等多様な参加者
広報説明 Public Relations 企画・計画・ルール・情報開示 「つたえる」	OP	TP	SP
参加協働・拠点 Collaboration 参画・組織構成・活動展開 告知・拠点・フィードバック 「かかわる・ひろげる」	OC	TC	SC
蓄積 Archive 「まとめる・のこす」 記録・成果・蓄積・継承	OA	TA	SA
機能 Functions 「はたらき・しかけ」 機能・技術・更新実績	F		

## 選考評定のポイント

学校ホームページをメディアとして見た場合、次の5つの特徴があります。それぞれの学校がどの程度それぞれの特徴を活かしきれているかが重要です。

学校ホームページは学校の自律性と活動実績を世間に示す最も効果的な情報手段です。

サイト運営は原則学校の自発性に任されるもので、掲載内容は社会に対して開かれています。つまり、学校の頑張りや主張がそのまま表現されやすいメディアといえます。

学校が日々の活動を伝えることで、詳細情報を求めるステークホルダの要求を満たします。

保護者を中心とするステークホルダ(利害関係者)が強く知りたいと願うのは、自分が直接関われない、学校の我が子の様子や日常そのものであって、マスメディアが好んで取り上げる事件不祥事報道や、行政の形式広報とは質的にも異なるものです。学校ホームページで学校での日々の活動を伝えることで、このような要望に応えることができます。

学校ホームページはメディアとして学校の現実を構成します。

私達が普段見聞きする学校情報の多くは、実はマスメディアからもたらされています。私達は、マスメディアが編集構成した(必ずしも望ましくない)学校のイメージを「学校の現実」として認識しがちです。しかし、学校ホームページが日々の様子をこまめに伝えれば、マスメディアよりはるかに信憑性の高い学校の現実をきちんと伝えることができます。

学校ホームページは潜在的ステークホルダを拡大し顕在化させます。

学校のステークホルダ(利害関係者)は保護者や児童生徒に限りません。学校と関係を持つ地域・市民・卒業生の存在は、学校の社会的価値を高める心強い後援者になります。社会にひらかれた学校ホームページは、これらの潜在的ステークホルダを発掘し、顕在化させる役割を持っています。

学校ホームページの更新頻度が高くなるほど、相対的に情報の信憑性は高まります。

学校は情報発信に特別な経費を割り当てる余裕はなく、日々の発信活動を粉飾し続けることはほぼ不可能です。更新頻度の高い学校の情報ほど、学校の現実を忠実に反映していると考えることができます。

選考評定にあたって、特に留意すべきポイントを以下にあげます。

選考評定は学校サイト運用担当者のための成績表であり、激励でもあります。

半数以上の学校にホームページが普及していながら、現状多くの担当者は、まだこれにどのようなニーズや意義があるのか、正確に把握できていません。J-KIDS 大賞にはそのような社会的意義を世間一般にもっと知らしめる目的があります。見ず知らずの運用担当者ですが、ぜひ温かくかつ冷静な目で評定やコメントを返してあげてください。

良いホームページの条件は学校とステークホルダ(利害関係者)との関係で決まります。

学校とステークホルダとの信頼関係が十分に築かれている場合は、積極的情報開示に対する期待と評価が集まりますが、関係が冷え切っている場合は、ホームページを開設すること自体が困難です。学校ごとに異なる背景があることを念頭に置いてホームページを吟味したいものです。

特に、児童の写真や作品の扱いはきわめてセンシティブな課題ですが、リスクを認識しつつ信頼関係とポジティブな効果期待にもとづいて積極的公開に踏み切る学校もあります。それぞれの決定は各場面で熟慮の上なされたものであり、J-KIDS 大賞としてはそれら決定を十分尊重すべきものと考えます。

評定はできるだけ正確かつ客観的に

今回の選考評定は、より正確さを求め、2人ペアになって行う方法をとっています。期間の最初と終わりの差異、あるいは判断が難しいケースなどがあり、適宜見直しを行う必要があります。総合点や評定者からのコメントは、ホームページ担当者にフィードバックされますので、できるだけ丁寧に見てあげてください。

枠だけ設けられていて、実際には内容が空である場合は、「ないもの」として判断します。

ページはつくったけれど中身がないケースはままあります。外枠はどんなに立派でも中身がなければ意味がありません。

素朴なデザインは大目にみます。

学校ホームページにデザイナーが付くのは私立学校だけです。サイト全体のデザインや構成は素人が行っているケースが圧倒的に多いので、デザインセンスだけに注目しすぎると、他の要素を見誤ることがあります。むしろ、凝りすぎひとりよがりのデザインでは意外に使い勝手が良くないものです。

学校が誰に対してアピールしようとしているかの確に把握する必要があります。

学校サイトを見慣れてくると、最初の数ページだけで誰を相手にしようとしているか、なんとなく分かるようになります。多様な利用者を全体に構成されたページは、誰に対しても温かく迎え入れる姿勢が貫かれています。ユーザーのことをこれっぽっちも考えていないページは、一見して不愉快な雰囲気を感じさせています。

## 第2部 評定のすすめかた

### 選考評定のフロー

今回の選考プロセスは「予備評定」「一次評定」「二次評定」の3段階で構成されています。

まず、「予備評定」は、事務局が既に実施済みであり、2005年度の12ヶ月間での更新件数が12件未満である学校(全対象約16千件のうちの約半分)を評定打ち切りとしております。リスト一覧に予約アイコンが現れない場合は、事務局の行う予備評定ですでに「評定打ち切り」と判断された学校です。

次が、ボランティアの方々に参加いただく「一次評定」です。「予備選考」に残った学校1校につき2名の方がチェックを行います。学校の選択は、評定ボランティアの方のお好みで先着予約順です。評定したい学校を一度「予約」したうえで、これを評定します。予約できる数に制限はありません。

評定基準は「必須条件(6項目)」「一次評定項目(37項目)」「二次評定(26項目)」に分けられています。評定ボランティアの方々が直接扱う項目は必須条件と一次評定の計43項目です。

「必須条件」を満たさない場合はその時点で評定打ち切りになりますので、一次評定項目の評定は不要です。

### 選考時の制限条件

評定基準にはそれぞれ条件が付けられていますが、記載方法や場所などに特別な制限が設けられていることがあります。代表的なケースを以下に示します。

**[E]**(必須条件)： 必須条件はホームページに最低限必要とされるもので、これが満足されないと途中で評定打ち切りになります。

**[W]**(ウェブ上に記載)： 基準内容がウェブサイトのどこかに記載されていることが条件です。PDFやFlash Readerなどはスキャンした文書を読み込むために時間を要するので、使い勝手の悪さという点から、この条件に該当しません。

**[T]**(トップページに記載)： 基準内容がウェブサイトのトップページに記載されていることが条件です。トップページとメインメニューが異なるサイトは、どちらかに記載されていることが条件となります。

**[Y]**(日付制限)： 基準内容が日付制限以降のものであることが条件です。

### 評定フォーム・学校情報

チェックシートの一番上は、学校側が登録した情報や、もう一人の評定者の動向が表示されてい

ます。

[みてみて] : i-learn.jp サイトから学校検索した時に学校名称と共に表示されるアイコンで、誰でもクリックできます。[みてみて]に票数が入っているということは、学校ホームページをアピールしたい気持ちの表れであると考えてください。当然、評定された結果を見て一喜一憂する熱心な担当者があることは想像が付きまます。ただし、票数が多いからといって評定を甘くする必要は全くありません。(票数が0の場合は表示されません)

[学校紹介・ニュース] : 学校ホームページの担当者が直接 i-learn.jp サイトに登録した学校紹介文やニュースです。熱心な学校ほど頻繁に更新してアピールしています。(未登録の場合は表示されません)

[学校からのメッセージ] : 学校ホームページの担当者が、評定ボランティアの方に対して書いたメッセージです(一般利用者や担当以外のボランティアは見ることはできません)。特に工夫しているところ、是非丁寧に見てもらいたいところなどが述べられています。評定時の参考にしてください。(メッセージが未登録の場合は表示されません)

[もう一人の評価者] : ペア評価者のニックネームとともに、現在どのような状況が表示します。まだ決まっていない・評価中・評価完了の順に表示されます。

## # 1 必須項目の確認(01～04)の評定

01～06 の項目は、学校ホームページを選考評定する上では、最初でしかも重要なポイントとなる情報が含まれています。必須項目の条件しだいで、評定打ち切りになるか、最後まで評定するか決まりますので、注意してください。

必須項目とは、学校ホームページとしての最低限要求される条件です。この条件が1項目でも満たされない場合は「評定打ち切り」となります。

### 01 URL・内容の確認 [U1]

URL と内容は正しいですか？

リンク先喪失  
HP 内容・運営者が規定外  
指定 URL から移転  
URL は正しい

の場合は評定打ち切りとなります。閉校した学校でも継続運営されていれば可、分校でも可、学校公式ホームページを名乗っていれば PTA・教員個人が運用していても可とします。それ以外のクラブのみのページや個人サイトは規定外になります。

### 02 最終更新日 [U3](必須項目)

最終更新日が2006年4月以降

学校サイトの最終更新日は2006年4月以降ですか？ そうでない場合は評定打ち切りとなります。最終更新日はふつうトップメニューか第1層の新着履歴に書いてあるのが普通ですが、どこにも記載がない場合は、「参考値」(後述)を元に判断してください。学校のホームページ担当者が異動になった場合など、かなり豊富な内容を持っていても、実際には古いものばかりで放置されていることもあるので、注意が必要です。

i-learn.jp は毎日更新状況を記録把握しており(アンテナといいます)、当該学校サイトが更新された最新日付を参考値として表示しています。ただし、この記録は機械的に収集しているので必ずしも正しいとは限らないことに注意してください。

### 03 学校概要(必須項目) [OP1-1]

学校正式名称 [E][T]

トップページのタイトルバナーかテキストで学校正式名称(=名称によって、その学校が確実に特定できること)の記載が条件です。具体的には、公立学校の場合市町村名の省略がある場合不可となります。私立学校や在外日本人学校等の場合フルネームは、必ずしも必須ではありません。

<例>

【公立校の場合】

- × ... 小学校 (自治体が特定できない)
- × ... 県 小学校 (自治体が特定できない)
- ... 市立 小学校  
(町立や村立などの場合も同様。町村立の場合は郡名がなくても可とします。)
- ... 市 小学校  
(町立や村立などの場合も同様。自治体によっては「立」を入れない場合もありますがこれも可とします。)
- ... 島 小学校  
(東京都島しょ部(大島・利島・新島・式根島・神津島・三宅島・御蔵島・八丈島・青ヶ島・小笠原諸島)は島 = 町村なので、町村名を省略して記述する場合があります。これも可とします。)
- ... 組合立 小学校  
(山間部などでは複数の市町村が合同で組合を結成し、運営する学校があります。)
- ... 県立 養護学校

学校名が一目瞭然であることが重要なので、風景写真に小さく入っているような場合は該当しません。この項目がチェックされない場合は評定打ち切りになります。

#### 04 学校概要(必須項目) [OP1-2]

ホームページに所在地および電話連絡先 [E] [W]

ホームページのどこかに所在地と電話連絡先の両方の記載があることが条件です。ホームページ以外の媒体(学校だよりやPDFファイル)に書かれているだけでは該当しません。

この項目がチェックされない場合は評定打ち切りになります。学校ホームページから直接学校側に連絡やアクセスがとれないようでは、公式ホームページとしての価値はありません。

#### 必須条件・評定打ち切りの確認

ここまで評定した時点で一度、評定打ち切り条件にひっかからないか確認をします。打ち切り条件は次の3つ、[項目2]学校ホームページの最終更新日が2006年4月1日以降であること、[項目3]学校正式名称が記載されていること、[項目4]所在地住所と電話番号の両方がホームページのいずれかのページにあることです。

## # 2 学校概要(05～26)の評定

#2 のフォームは一般企業であれば、会社プロフィールに該当するような情報がメインです。形式的情報は古いものがあったとしても問題ありませんが、学校だより、行事予定などは情報更新頻度をはかる重要なキーとなります。

### 05 メールアドレス [OP3]

ウェブ上にメールアドレスが記載されているか、メール送信できるようになっている。[W]

対象となるのは、ホームページにある学校窓口となるメールアドレスです。ホームページ以外の媒体(学校だよりや PDF ファイル)に書かれているだけでは該当しません。

直接アドレスが記載されていなくても、アイコンをクリックするとメール送信できる(mailto:)ようになっていたり、フォーム送信で直接学校側にメッセージが送れたりする場合は条件をみたくもとします。最近ではスパム対策で表示がグラフィックスになっていたり、2バイト文字で書かれていたりすることもあります。結果的にユーザーがメール送信できれば良いので、形式は問いません。

ちなみに、インターネット手段以外の電話や FAX は代用不可です。毎日メールを処理するのが面倒という理由で、ページ上では公開されていないこともあります。

### 06 最終更新日・新着更新履歴の記載 [OP4]

トップページに最終更新日または新着更新履歴の記載がある。[T]

ホームページは情報の鮮度が命ですから、最終更新日がいつであるかユーザーが知るの大切なことです。したがって、ホームページ以外の媒体(学校だよりや PDF ファイル)に書かれている場合は該当しません。

### 07 学校施設紹介 [OP6]

学校内施設の紹介がある。

該当する内容があれば程度は問いません。防犯対策上、校内見取り図を掲載しない自治体・学校もありますので、見取り図はなくてもかまいません。

### 08 アクセスマップ・交通手段 [OC7]

学校までの地図や交通手段の案内が掲載されている。

学校までの地図や交通手段の案内を記したものです。セレモニーやイベントがある時などは地域外の人にも役立つ情報となります。

#### 09 校歌 [OA4]

校歌の紹介がある。

歌詞や楽譜、演奏が聴ける場合など様々ですが、解説の程度は問いません。

#### 10 校章 [OA4]

校章の紹介がある。

校章が掲載されていれば可とします。解説の程度は問いません。

#### 11 時間割または日課表 [TP4]

時間割あるいは日課表(時刻記載のあるもの)がある。

いわゆる一般的な時間割表です。学校概要に含まれることが多いようです。

#### 12 2006年度の学校長氏名 [OP2]

ウェブ上に2006年度(平成18年)の学校長氏名がある。 [W] [Y]

ウェブサイトのどこにあってもかまいませんが、2006年度の情報であることが条件です。PDF等「学校だより」に書かれている場合は(閲覧するのに手間がかかるので)不可とします。一般常識として、組織トップの異動は速やかに反映するのが当たり前です。

#### 13 2006年度の学校長挨拶・メッセージ [OC1]

ウェブ上に2006年度(平成18年)の挨拶やメッセージがある。 [W] [Y]

ウェブサイトには校長記名の挨拶文が掲載されるのが一般的です。2006年度の情報であることが条件です。PDF等「学校だより」に書かれている場合は(閲覧するのに手間がかかるので)不可とします。

#### 14 2006年度の学校統計(学年別児童数) [OP5]

2006年度(平成18年)の学校統計(学年別児童数)がある。

掲載されている場所は問いません(学校だよりに記載されるケースもあります)が、2006年度の情報であることが条件です。学年ごとの人数が分かることを必須とします。学級数や、学級ごとの人数は、記述されていなくても可とします。

#### 15 2006年度の教職員名簿 [OC4]

2006年度(平成18年)の教職員名簿がある。 [Y]

学校に勤務する教職員が特定できることが条件です。掲載されている場所は問いません(学校だよりに記載されるケースもあります)。教職員名簿を公表する学校はごく一部に過ぎません。分掌の記載があるときは次の[項目16]もチェックします。イニシャルや匿名表記の場合は、人物が特定できないので、条件を満たしません。

## 16 校務分掌または組織体制図 [OC5]

校内分掌や組織体制図がある。

年度や掲載場所は問いません。分掌とは公式の校務役割分担のことで、前項[項目15]教職員名簿に合わせて記載されるケースもあります。もしくは、全体的な組織体制図でもかまいません。

## 17 学校教育目標・経営理念・指導方針 [TP1]

学校のもっとも基本的な運営方針が明らかにされていますか？それらは、一般社会人にも分かりやすく解説されていますか？

なし

あり(程度不問)

解説あり(目安 A4 で 2 枚以上)

学校教育目標は教育活動の根本であり、大半が記載しています(教育研究とは異なります)が、その程度は箇条書き程度や解説図を含むもの、あるいは文章解説がついたものまで様々です。では、特に保護者向けに丁寧に解説してあるものを評価してください。

## 18 ホームページ運営方針 [OC2]

ウェブ上にホームページ運営方針がある。 [W]

ウェブ上にホームページの運営方針が掲載されている場合にチェックします。ガイドライン、規程といったかたちで記されているケースもあります。学校独自で作ったもの、あるいは自治体等で決めている場合があります。内容程度、分量は問いません。

## 19 学校だより [SA3]

学校だより、またはそれに該当する広報物が掲載されていますか？

なし

いずれか最新号が2006年1月以降 [Y]

を満たし、かつ、過去分を含め計6回以上掲載

上記に該当する広報物すべてが対象となります。名称は学校だよりである必要はありません。PDF・ウェブ等形式は問いません。内容が空の場合はカウントしません。 の条件が満たされない場合、 はチェックしません。

学校だよりのなかに、その他の項目(例えば教職員名簿など)に該当する内容記載があれば、その項目でもチェックします。したがって、学校だよりさえしっかり残されていれば、他の項目でも点数を稼ぐことができますでしょう。

## 20 学年学級通信 [SA5]

学年・学級通信(各学年や学級の広報)、それらに該当する広報物が掲載されていますか？

なし

いずれか最新号が2006年1月以降 **[Y]**

を満たし、かつ、過去分を含め計6回以上掲載

上記に該当する広報物すべてが対象となります。PDF・ウェブ等形式は問いません。内容が空の場合はカウントしません。 の条件が満たされない場合、 はチェックしません。

## 21 図書だより(情報) [SA5]

図書だより(情報)のいずれか最新号が2006年1月以降。 **[Y]**

図書だより、またはそれらに該当する広報物が掲載されていますか？

上記に該当する広報物すべてが対象となります。PDF・ウェブ等形式は問いません。内容が空の場合はカウントしません。

## 22 保健だより(情報) [SA6]

保健だより(情報)のいずれか最新号が2006年1月以降。 **[Y]**

保健だより、またはそれらに該当する広報物が掲載されていますか？

上記に該当する広報物すべてが対象となります。PDF・ウェブ等形式は問いません。内容が空の場合はカウントしません。

## 23 学区・地域(校外)紹介 [OC8]

学校周辺の地域について紹介したページがありますか？その内容はどの程度詳細ですか？

なし

あり(程度不問)

資料的価値あり(目安 A4 で 2 枚以上)

地域紹介の形態はさまざまですが、児童学習成果として手作りの地域調べ資料を掲載している学校もあります。特に子供達の視点から綴られた資料は後輩達のよい教材になるでしょう。ただし、学校サイト外(自治体サイト)等へ単にリンク設定してあるような場合は、評価対象になりません。

資料的価値の判断基準としては、授業等で資料として利用できるくらいの分量目安として A4判 2枚程度としていますが、総量が少なくても、内容が濃いものであれば につけてかまいません。

#### 24 沿革・学校の歴史 [OA1]

沿革・学校の歴史に関するページがありますか？その内容はどの程度詳細ですか？

- なし
- あり(程度不問)
- 年表以外に解説または複数写真などあり [OA2]

学校ホームページに沿革が設けられているケースは比較的多数あります。簡単な年表でも に該当します。一方、 の条件はかなり厳しいものです。特に古い写真の複数掲載・丁寧な解説が付属し、教材史料価値が高いものを評価するものとします。

#### 25 行事予定 [SP1]

学校の行事予定の記載がありますか？それはどの程度詳細ですか？

- なし
- 月次の行事予定（日付有無を問わず）
- 2006年度で日付のある予定(翌月以降があれば可) [Y]
- 2006年度で日付のある予定(年度末まであれば可) [Y]

は2006年度の詳細予定であることが条件です。内容が空の場合は不可です。

この項目は、実際に保護者がホームページを調べて役に立つかどうか、という観点で条件が設定されています。ちなみに、防犯上の懸念から、詳細の行事予定掲載を制限している自治体もあります。

#### 26 学校生活(手続等) [SP2]

ウェブ上に緊急時の対応や連絡方法がある。 [W]

自然災害時の登下校方法や保護者・学校間の連絡方法は、いざというとき即必要とされる情報ですから、ホームページに置かれていれば利便性が高い項目です。程度は問いません。

ちなみに、緊急時対応とは、あくまで保護者向けの情報であって、不審者に対して手の内を明かすことではありません。

### # 3 学習活動・教育研究・学校生活(27～37)の評定

学校での活動は、おもに、正課の学習活動に関するものと、学級活動や課外活動に関するものの2つに分けて考えることができます。学校の方針により、それぞれの情報発信にかけるウェイトが異なり、それがそのままホームページの個性にも反映します。

正課の学習活動に関する項目では、保護者を対象としたものと、教職員・教育関係者を対象としたものがあること注意してください。教育研究はおもに教職員向けであり、研究大会や発表のためにかなり専門的な実践の知見や指導案・資料などが掲載されていることもあります。

#### 27 授業活動 [TP7/TC3+]

授業活動(学校行事以外)に関する紹介記録がありますか？また、それはどの程度の頻度で更新されていますか。

なし

を選択した場合は項目28が省略されます。

紹介あり(程度不問)

2005年度(平成17年)以降で、かつ、月平均1回以上更新

2005年度(平成17年)以降で、かつ、週平均1回以上更新

～ を選択した場合は項目28でさらに詳細に評価します。

正課の学習活動とは、各教科学習(総合的な学習の時間を含む)全般のことを示します。教職員・教育関係者向けの教育研究に関する項目は含まれますが、あくまで授業活動についての紹介記録なので、遠足や運動会、修学旅行等の行事や、課外活動の委員会・児童会、クラブ部活動などは含まれません。

#### 28 児童制作作品等 [TA1/TA5+]

2005年(平成17年)4月以降の児童作品・学習成果が紹介されていますか？

なし

2005年度以降(平成17年)の作品あり(程度不問)

2005年度以降(平成17年)の作品で、かつ、多くの児童作品が収録されている。

各学校サイトが児童作品に価値をおいているかどうかは、ページの作りを見ればはっきりと分かります。まったく載せていないか、形だけか、できるだけ完全な状態で収録されているか、のいずれかです。

子供たちの作品は数が多かったり、出来不出来があつたりで扱いがたいへんですが、反面、地域調べ、学校の歴史調べ、あるいは各プロジェクトの観察記録やプレゼンテーションなど、そのまま学区紹介や沿革、プロジェクト成果として公表できるものもあり、実際に学校ホームページへの掲

載を最終目標として取り組んでいる学校もあります。長期的に見れば、残された子供達のコンテンツは学校にとっても貴重でしょう。

の多くの作品とは、1学級もしくは1学年単位で児童の複数の作品が掲載されている場合を指します。

## 29 学校生活 [SP5/SA1]

学校生活・行事に関する紹介記録がありますか？また、それはどの程度の頻度で更新されていますか？

なし

を選択した場合は項目30～34が省略されます。

紹介あり(程度不問)

2005年度以降(平成17年)で、かつ、月平均1回以上更新

2005年度以降(平成17年)で、かつ、週平均1回以上更新

～ を選択した場合は項目30～34でさらに詳細に評価します。

学校生活のタイムリーな発信は学校ホームページの要です。この項目はそういう意味でも大変重要です。具体的記録は新着情報、ニュース、日記日誌などに書かれているケースが大半です。一箇所にまとめられていなくてもかまいません(評定するほうは大変ですが)。トータルでどの程度の頻度で更新されているかを判断してください。

## 30 修学旅行・運動会の記録 [TC4]

2005年度(平成17年)以降の修学旅行・運動会どちらかの詳細記録がある。

2005年度(平成17年)の修学旅行、運動会のどちらかが詳細記録されていればチェックします。当日の行程や様子が把握できることを条件とします。

ウェブ上に入学式、卒業式、運動会、学芸会、遠足、宿泊研修、修学旅行など、とくに保護者の注目度が高い行事を速報すると、学校ホームページに興味関心が集まります。学校によっては、特集のページを設けて子細にレポートしたり、モブログ(携帯電話のインターネット機能を利用して更新するウェブログ)を応用して、カメラ付携帯電話から直接ページの写真を書き換えたりしているケースもあります。

## 31 児童会委員会活動 [SP6/TA3]

児童会や委員会活動の紹介記録がありますか？

特に具体的記録にまで踏み込んでいるかチェックしてください。

なし

紹介あり(程度不問)

2005年度(平成17年)以降の活動記録あり

の児童会委員会活動を紹介するページは比較的多くみられますが、 の2005年度以降の

活動記録となると、かなり数が限られます。とくに新着情報や学校ニュース、あるいは児童会のページなどで、児童会イベントの記録がなされていたり、委員会議事録などがきちんと残されていたりする場合にチェックします。

### 32 クラブ・課外活動 [SP6/TA4]

クラブ・課外活動の紹介記録がありますか？

特に具体的記録にまで踏み込んでいるかチェックしてください。

- なし
- 紹介あり(程度不問)
- 2005年度(平成17年)以降の活動記録あり

項目31とほぼ同じ観点から、クラブや課外活動についての話題がどの程度詳細に扱われているか判断してください。

### 33 2006年度の給食献立・給食だより(予定)[SP4]

2006年度(平成18年)当月の給食献立あるいは給食だよりがある。 [Y]

この項目は項目34と対になっています。毎月献立予定表や給食だよりとして配布されるものです。PDF・ウェブ等の形式は問いません。少なくとも当月分の献立予定が掲載されていることが条件となります。

### 34 2005年度以降の給食紹介 [SA2]

ウェブ上に2005年度(平成17年)以降の給食日記(記録)がある。 [W]

この項目は項目33と対になっています。こちらは給食メニューや食後の感想を紹介しているものです。PDF・ウェブ等の形式や程度は問いませんが、日々の記録ですから、給食のある日のほぼ毎日の情報が載っていることが条件です。

### 35 学習用リンク集 [TC6]

児童向け教材または調べ学習のリンク集がある。 [W]

児童作品以外で、自作教材プログラムや資料、プリント、調べ学習用リンク集(サーチエンジンも含む)など、おもに児童が用いる教材資料として公開している場合チェックします。

### 36 教育関連機関へのリンク [OC8]

公立学校は自治体教育委員会や域内他学校、国立私立学校の場合は上位組織(大学・学校法人)や兄弟姉妹校へのリンクがある。 [W]

組織内の位置付け、あるいは他機関との関係を明らかにするため、関連機関へのリンクが必要です。

### 37 PTAまたは地域活動機関へのリンク [OC8]

PTAまたは地域活動機関へのリンクがある。 [W]

関連するボランティアサークル、NPOのほか、スポーツのジュニアチーム等を含みます。

## #4 PTA・機能(38～43)の評定

このフォームの前半には、教員・児童以外の学校関係者を幅広く対象とした情報がまとめられています。学校側がどこまでを利用者として考えているか、一番差がはっきりと出てくる項目群といえるでしょう。

フォーム後半では、おもにホームページの利便性を向上させるための様々な機能についての項目がまとめてあります。

### 38 卒業生・同窓会情報 [SC8]

卒業生対象の情報・ページ・同窓会情報等がある。

懐かしい母校を訪ねてくる卒業生に対してケアしていますか？程度は問いません。私立学校や高等学校を除くと、同窓会に対する意識はさほど高くないのが普通です。しかし、卒業生にとって母校の今の姿は何かと気になるものですし、学校にとっても力強い(時には手厳しい)応援者になります。

### 39 低学年児童への配慮 [F3]

低学年児童が利用することを前提に、ひらがな付加など平易化への配慮が行なわれている。

一部のページでも配慮がなされている場合は条件に該当します。

小学校低学年を対象とした学年ページなどは、一部ひらがな書きをしている学校があります。また、Kids'Goo のひらがな変換表示機能を利用することで、漢字表記をひらがなに切り替えて表示させることもでき、これを機能として実装する学校があります。どちらでもかまいません。

### 40 サイト内検索・サイトマップ [F2]

ウェブ上にサイト内検索機能もしくはサイトマップがある。 [W]

サイト内検索機能とは、キーワードを入力して学校サイト内のコンテンツを検索させる機能です。学校の場合、Google など検索窓が設けられているケースが多いのですが、単なるインターネット全文検索用だったりしますので、サイト内が対象となっているか確認が必要です。サイトマップとは、サイト内のファイル構成を見取り図・一覧にしたものです。

### 41 携帯電話用ページ [F4]

携帯電話用ホームページがある。 [W]

携帯電話を前提としたページがあれば程度を問わず可とします。対応機種は問いません。

#### 42 双方向性の確保 [F7]

電子掲示板、オンラインアンケート、ゲストブック、ウェブログなど

双方向性を確保する機能がある。[W]

いずれかの機能が実装されていれば可とします。

#### 43 学校へのメッセージ

この項目は評定者から学校ホームページ担当者へのコメントで、担当者以外には表示されません。ぜひ感想やアドバイスを書いてあげてください。書き込みがあると、累積ポイントに加算されます。

### # 5 2次評定項目(事務局評定項目)

2005年度より、判定に際してある程度経験と知識が必要とされる項目(自動判定項目を含む)については、事務局スタッフによる2次評定で行われることになりました。選考ボランティアによる1次評定で得点が低い学校は、2次評定作業自体が行われないケースもあります。

#### 44 記事への文責記名 [OC6]

管理職や教員による記事は実名記名されていることを条件とします。

児童によるものは除きます。[W]

最近では新聞でも記名記事が増えてきましたが、学校ページで文責記名があるのは稀です。

ニュースやできごとの報告でよく見られるケースとして、明らかに一人称で書かれているのに、名前がないと、読み手に対して違和感や不気味な印象を与えてしまいます。趣味の延長ならともかく、業務の一環として行っている事は、堂々と名前を伴って公表すべき仕事の成果と考えます。

特に複数担当者が持ち回りで記事を書いている場合は、誰が書いたか後で分かった方が、振り返りの時にも役に立ちます。

#### 45 表彰・受賞記録等 [OA3]

なし

あり(程度不問)

クラブ部活や個人等の受賞も記載

表彰や受賞は、学校の成果を対外的に示す最も分かりやすい方法でもあります。受賞歴を「先輩達のがんばり」として紹介している学校があります。後輩達のあこがれや学校としての誇りを鼓舞するには非常に効果的です。

学校自体が受賞した場合は、沿革にも残されることが多いのですが、児童・保護者・地域が関わ

ったケース、クラブ活動、個人作品の受賞になると、まとめられているケースはほとんどありません。

学校は単なる入れ物ではなく、思い出を紡ぎ残す場所であると考えれば、そこでの営みをきめ細かに残すことは、後々の学校にとっても、子供達にも意義あることです。

#### 46 2005年度以降の学校財務 [OP7]

2005年度(平成17年)以降の学校予算計画または決算報告がある。

企業ではコンプライアンス(法律遵守)を示すため、会計報告やビジネスプロセスの開示が厳しく求められるようになっていきます。学校における財務報告はまだ一般的ではありませんが、透明性を高める上では重要な情報です。項目があれば程度は問いません。

一部自治体では、財務報告をホームページに記載することが奨励されています。

#### 47 2005年度以降の学校評価解説(経過説明・解説文書) [OP8]

2005年度(平成17年)以降の学校評価解説(経過説明・解説文書)がある。

学校評価は学校経営の健全性を評価し、透明性を高めるために行われるもので、現在各自治体で検討試行されています。この項目は2005年度以降の概要や解説があれば該当します。

学校評価は、おもに組織内部の業務改善を目的として行われていることから、保護者からの意見聴取や結果公表に対して慎重になる学校も多いようです。

一部自治体では、ホームページでの結果記載が義務づけられていますが、質問項目が本質的課題とは無関係であったり、印象評価に終始したり、解説や考察がおざなりなケースが多く、ユーザーに対して説得的でないばかりか、逆に不信感を煽ってしまうこともあります。結果報告や解説の公表は、学校のステークホルダに対する誠実さの現われと考え、真摯に対応したいものです。

#### 48 2005年度以降の学校内部評価結果(教職員サイドの評価結果) [OP9]

2005年度(平成17年)以降の学校内部評価結果(教職員サイドの評価結果)がある。

2005年度以降の学校側による自己評価結果があることが条件です。[項目47]の解説を参照

#### 49 2005年度以降の学校外部評価結果(保護者・第三者サイドの評価結果) [OP10]

2005年度(平成17年)以降の学校外部評価結果(保護者・第三者サイドの評価結果)がある。

2005年度以降の学校外からの外部評価結果があることが条件です。[項目47]の解説を参照

#### 50 FAQ・諸手続解説 [SP3]

学校生活・手続き等に関する質問回答集や解説です。FAQ にふさわしい情報量を備えているか判断してください。

なし

あり(程度不問)

掲載件数が10件以上

学校生活に必要な手続きや物品の購入などは、自治体や学校ごとに考え方や方法が異なるので、勝手によく分かっていない保護者にとっては、とかく頭を悩ませる機会が多いものです。ホームページに記載があれば、転入学の際に事前にチェックすることができ、先生がたに対して面と向かって聞きにくい「一見どうでも良さそうな質問」でも、答えがきちんと書いてあれば、余計な気をもむ必要がなくなります。ユーザーの立場に立って、かゆいところに手が届くようなFAQ作りを心がけたいものです。

#### 51 「総合的な学習の時間」の年間指導計画(シラバス) [TP2]

「総合的な学習の時間」は学校ごとにカリキュラム立案される教科です。シラバスとは年間指導計画のこと。通常は目標、単元構成、割り当て時数、評価観点などが記載されます。

- なし
- あり(一部学年のみ)
- あり(全学年を網羅)

日本国内の学校は、文部科学省が定める学習指導要領に準拠していることから、本来シラバスは必要なかったのですが、最近では、特区制度や発展学習、もしくは、学校毎に定める総合的な学習の時間など、学習指導要領には記載されない領域が存在しています。シラバスを記載することは、すなわち、これらの領域に関して、学校がどのような計画を持っているかを明らかにするというを示します。

したがって、特区制度が適用されている自治体を除けば、全学年全領域を網羅するシラバスの記載は現時点ではオーバースペックと言えます。

#### 52 総授業時数 [TP3]

各教科年間総授業時数がある。

これは学校概要やシラバスに含まれるケースがあります。実施実態把握のための判断基準となります。

#### 53 学習評価 [TP6]

学習評価方法または通知票の解説がある。

児童学習を対象とした学習活動の評価基準や評価方法に関する解説です。保護者向けに分かり易い説明が必要です。

#### 54 教師による学習教材 [TA5]

児童学習用の教材や資料がある。

教職員が独自に制作した教材資料が掲載されている場合チェックします。

### 55 学習プロジェクトページ等 [TC5/TA6+]

「総合的な学習の時間」を主として、具体的な学習単元・プロジェクト・活動をクローズアップして扱ったページがありますか？完成度が高いものは に該当します。

- なし
- あり(程度不問)
- 教材・資料として活用可

学習プロジェクトとしてまとめられたページについては、年度は問いません。

各学校の総合的な学習の時間のテーマには、地域に根ざしたユニークなものが多数存在します。学習過程をつぶさに記録し、作品やレポートが丁寧に掲載されたものは、同世代の子供達のための貴重な学習材となります。 の完成度を測るためのポイントは、授業内容・成果・先生の気付き等が、他者にも分かるように詳細にレポートされ、後から同じようなプロジェクトが追試できるようになっていることです。単に日記調にただ書かれているものは該当しません。

### 56 児童によるページ構成 [TC1]

児童委員会やクラブ活動によるサイト一部の編集構成

委員会やクラブ活動の一環として、サイトの一部の編集や構成を児童が担当している場合のみチェックします。

学校ホームページへの編集参加は、一部の限られた学校でのみ行われています。J-KIDS 大賞では最初から児童の編集参加を重要なポイントと認識していますが、なかなか広まりません。

子供達が取材や編集の能力を一度身につけ、毎日投稿されるようになると、驚くほどホームページが活気づき、内容も豊かなものになります。具体例としては、3年連続大賞を受賞した印西市立大森小学校を参照してみてください。

### 57 2005年度以降の教育研究計画 [TP5]

2005年度(平成17年)以降の教育研究計画

2005年度以降の研究計画・企画案・概念図等が掲載されている場合チェックします。内容の程度は問いません。

学校では教育目標とともに、毎年教育研究計画を立案するのが普通です。教育目標は抽象的なスローガンが多く、一度決められたら変更される機会は少ないのですが、教育研究計画はより具体的で毎年更新されるケースの方が多いようです。文部科学省や自治体教育委員会から具体的なテーマが与えられ、研究推進の体制が組まれることもあれば、学校独自に自主研究という名目で計画が立てられることもあります。

研究計画はたいがいの場合、文書や概念図の形で提出されるため、ホームページにもそれらが載っていますが、残念ながら、大半は教育関係者でなければよく理解できないような書き方になっています。この項目では、分かりやすさや内容程度は問いませんが、ホームページに掲載する以上、保護者が読んでも十分理解できるような配慮が欲しいところです。

**58 2005年度以降の教育研究成果報告 [TA2]**

2005年度(平成17年)以降の教育研究成果報告

2005年度以降の教育研究の成果が記録・指導案・報告書等の文書で掲載されている場合チェックします。内容の程度は問いません。

[項目58]は研究計画で、こちらはその結果報告になります。研究計画までは比較的該当数が多いのですが、成果報告となるとずっと少なくなります。研究発表大会等で報告書を作る場合以外は、やりっぱなしが多いということになるでしょうか。

**59 PTA 活動情報 (2005年度以降の組織構成) [SC4]**

2005年度(平成17年)以降のPTA組織構成がある

2005年度以降のPTA組織紹介がありますか？小学校ホームページからのリンクが貼られていれば、独立したPTAサイトの内容でも可とします。

**60 PTA 活動情報 (2005年度以降のPTAだより) [SC6]**

2005年度(平成17年)以降のPTAだよりがある

2005年度以降のPTAだより、または、それに類する広報物がありますか？小学校ホームページからのリンクが貼られていれば、独立したPTAサイトの内容でも可とします。

**61 PTA・ボランティア・地域連携 [SC3]**

2005年度(平成17年)以降のPTA、ボランティア、地域連携活動に関する紹介記録がありますか？

なし

2005年度(平成17年)以降の活動記録報告あり  
を満たし、かつ、過去の記録件数が6件以上

PTAの場合は、小学校ホームページからのリンクが貼られていれば、独立したサイトの内容でも可とします。

**62 児童の感想 [TC2]**

学校生活に関する児童からの感想コメント書き込み

児童自身の感想であることが分かることが重要です。

**63 教職員のコラム・エッセイ [OC3/OA5+]**

学習評価やフォーマルな報告事項以外で、教育活動や学校生活に関して教職員の心情や姿勢を伝えるような叙述がありますか？コラム等にまとめられている場合は高く評価します。

なし

記載あり(程度不問)  
コラムやエッセイとして掲載

#### 64 保護者・利用者からの意見感想 [SC2]

学校全般やホームページに関して、保護者や一般利用者からの感想がありますか？多様な意見が掲載されていることが重要です。

なし  
あり(程度不問)  
10件以上のコメント

#### 65 学校ホームページの独創性と完成度 [OA7]

ホームページ全体の独創性と完成度を総合的に判断します。

全体量が少ない・表面的・ありきたり  
独自性への努力は認められる  
他学校や一般利用者にとって有益  
ホームページの目標になるほど完成度高し

#### 66 デジタルイメージ賞候補 [U5]

デジタルイメージ賞候補

児童作品[TA1]・学校生活[SP5]などで特にイメージ賞として推薦できるものをチェックします。

#### 67 更新頻度 [F6]

i-learn.jp にて採取したデータから自動計算により加点します。

#### 68 タイトルタグに学校名称 [F1]

i-learn.jp にて採取したデータから自動計算により加点します。

#### 69 RSS(Rich Site Summary)の配信 [F2]

i-learn.jp にて採取したデータから自動計算により加点します。

## 評定結果の調整

J-KIDS 大賞 2006は1学校あたり2人のペアで評定する仕掛けになっています。双方の評定が完了すると、相互の評定結果を参照することができます。以下の方法で、評定後の見直し調整を行います。

評定調整は、見落としや勘違いによるブレを是正するためのもので、1校あたりの評定が完全一致することをねらったものではありません。ですから、評定者の主張があれば、それを優先させて構いません。

## 評定結果の評点差表示

[評定済み]一覧では、双方の評定が完了している項目について、評点差が表示されます。

+ はペア評定者よりもあなたの評点が高い(甘い)ことを示し、- はペア評定者よりもあなたの評点が高い(辛い)ことを示しています。

評点差が特に ±7点以上の項目は**太字表示**になります。評点差が大きい場合は次のような原因が考えられます。

評定時期が異なったために、対象学校のホームページ内容が変化した。

とくに、しばらく更新していなかったページの内容が変わった場合、「必須条件未了」から全項目評価に変わっている可能性があります。

この場合は、変更点を評定に反映させる必要があります(出来る範囲で結構です)。

評定者の項目見落としや勘違いで、評点が極端に甘い(もしくは辛い)。

この場合は、評定の精度について双方で調整検討する必要があります。

右図のケースでは、特に3項目で大きく点数の差があることが分かります。

評定完了一覧		
1	秋田市立土橋南小学校	0
2	秋田市立川原小学校	0
3	秋田市立藤平小学校	0
4	雄勝郡羽後町立仙道小学校	0
5	雄勝郡羽後町立新沢小学校	0
6	雄勝郡羽後町立三輪小学校	0
7	雄勝郡福川町立川連小学校	0
8	雄勝郡福川町立駒形小学校	0
9	由利郡由利町立西滝沢小学校(閉校)	0
10	安芸郡東洋町立野根小学校	0
11	安芸郡東洋町立名留川小学校	0
12	安芸郡東洋町立甲浦小学校	0
13	吉野郡野田川村立北殿小学校	-17
14	本曾郡大森村立大森小学校	0
15	尾道市立西藤小学校	-6
16	尾道市立筒湯小学校(閉校)	0
17	尾道市立長江小学校	-2
18	徳島市立西条小学校	0
19	徳島市立都回小学校	-2
20	徳島市立善部小学校	0
21	徳島市立日吉南小学校	0
22	徳島市立日吉台小学校	-28
23	徳島市立徳北小学校	0
24	徳島市立寺尾小学校	0
25	礼文郡礼文町立倉深井小学校*	-1
26	徳島市立徳北小学校 實1	-48

## 評定後の学校ページ側の変化検出

評定を行った後に学校サイトが更新されたり、i-learn.jp の学校情報に変化したりする場合、一

覧の学校名の後ろに★マークが付きます。このマークがついている場合、トップが更新された、学校サイトの URL が変更になった、学校側からの情報書き込みがあった、など、評定結果に影響を及ぼす重要な変化が起こっている可能性がありますので、一応チェックが必要です。

なお、頻繁に更新している学校は★マークが常につきっぱなしになります。

### 個別評定差の把握

点数差の大きい某小学校のケースをみてみます。このケースは、内容が豊富であるにも関わらず、昨年度はまったく更新がなされていない学校で、「評定打ち切り」に当たります。

ペア評定者の評定結果は表の右側、さらに右側には昨年度の評定結果の参考値が表示されています。

さらに一番下の表では、全項目の得点が表示されます。自分が左側、ペア評定者が右側になります。

この結果を比較してみると、ペア評定者は最終更新日が2005年1月以降あったものとして、残りの項目をすべて評定していることが想定されます。



この場合、該当する学校ページの最終更新日が必須条件に引っかかるか、もう一度確認したり、伝言機能を利用してペア評定者との調整を行う必要があります。

以上